

日本保育學會事業計畫

一、第二回大會

第二回大會及び研究發表會を左の如く開催する。

期日 五月二十九日(日)午前九時から午後五時まで
場所 東京女子高等師範附屬幼稚園

この大會に研究發表をしようとする會員諸氏は、發表題目、氏名、勤務先を四月二十日までに本會事務局あてに御込まれたい。

二、月例研究會

二月二十日(日)午後一時から三時まで

「我が國に存在した保育的教育法の傳統について」 於愛育研究所 村山 貞雄氏

三月十六日(水)午後一時から三時まで、於愛育研究所 及川 ふみ氏
「自由保育の實踐過程について」 鈴木 とく氏

三、講義會

智能検査の實施が強く要求せられてゐる時、本學會は啓蒙事業として會員諸氏のために左の講習會を開く事にした。

「智能検査の技術について」 竹田 俊雄氏

四、講座

新しい保育觀念及び實踐の諸問題についての普及徹底を計るために六月には系統的な講座を開く豫定である。

五、會報發行

全國にわたる本學會の會員諸氏と絶えず連絡し親睦をはかるために會報を出す事が計畫せられてゐる。會員諸氏の、狀況、保育便り、會員感想等の御投稿を希望する。

六、共同研究

以上の他になほ共同研究の計畫も考えられてゐる。

日本保育學會からアメリカ兒童

教育協會(A.C.E.)へのメッセーヂ

第一回大會開催の折、總司令部C.I.E.のヤイディ女史が、日本保育學會からアメリカ兒童教育協會と連絡文通するよう、そして女史がその仲介の勞をとつて下さるとの厚意ある御申出であつたので、二月三日倉橋本會會長は山下副會長を帶同總司令部にヤイディ女史を訪問し、先般メッセーヂの御禮を申上げると同時に、次の如き倉橋會長からアメリカ兒童教育協會會長宛の書簡を同女史に託してアメリカへ送つて次の事を御願ひした。女史は快く御承諾下さつて、雜誌等を送つて貰えるようあつ旋の勞をとつて下さることになつた。

アメリカ兒童教育協會會長殿

この度日本に於ける幼児教育の研究者及び幼児教育に関心を有する有志の者によつて日米保育學務が設立されました事を御報告申し上げます。誠に欣快に存じます。我々は昨年十一月二十一日東京に於て第一回の大會を開催致しました所、全國から三百餘の會員が參集致し、C.I.E.のヤイディ女史からは御懇切なメッセーヂを頂戴致しました。この大會では十二の研究發表が行われ、シンポジウムに於ては五人の提案者を中心として非常に活潑な討論が行われました、第一回大會として非常な成功を収めました。

日本保育學會は、日本に於ける幼児教育の科學的發展の推進力たらんこととして設立されたものでありますが、まだ創設されたばかりでありますので、設立の目的を充分に果すことが出来る爲には、色々と御援助を頂かなければならないと存じます。そこで本會と致しましては、先ず貴會に色々と文通申上げることが御許し頂き、我々に有益な御助言を賜わり、日本の幼児教育進展の爲に御力添え下さるよう御願ひ致し度いと存じます。

我々は將來事情が許すならば、日本に於ける幼児教育者の爲にパンフレットやリーフレットの如きものを出版致し度いと計畫して居りますので、幼児教育に關し、貴協會から色々の資料を頂戴致す事が出来ましたら、誠に幸甚に存じます。現在日本には約二五〇〇の幼稚園と約二〇〇〇の保育所があります。この等々の保育施設は戦前に比べて非常に減少して居り、全國的に育えば該當年齡幼児の一〇％餘が幼児保育の恩恵に浴しているに過ぎない状態であります。日本の幼児保育に關しては、保育施設の普及、保育者の養成と再教育、新しい幼児教育の方法に關する研究等、残されている問題が澤山あります。

日本保育學會はあらゆる努力を拂つて、この國の幼児教育を科學的研究の基盤の上に打ち樹てようと力めて居ります。將來我々に對して御厚意ある御援助を賜わりますよう。全員一同を代表して私から御願ひ申上げる次第であります。

日本保育學會會長 倉橋惣三

(六四頁より) 計畫的に教育をしようとするには、自然に集團的となり、これを無視することは出来ません。

司會者——だん／＼司會者の權威がなくなりませんが、三木さんが、一言したいといわれますが、皆さんよろしいでしょうか。(拍手)

三木氏——現行幼稚園は、三歳からとなつていますが、それに何か根據があるかどうか、と山下さんが先程おつしやいましたので、それに對して一言申さなければなりません。これは昔の幼稚園令がそのまま残つていて、三歳からとなつていますが、これには、科學的根據はありません。農村とか、地方の人の場合は、幼稚園、保育所、兩方からやつていけばよいと思ひます。例をとれば、盲學校、聾學校の義務制について考えてみても、これらの子は、寄宿舎に入れねばならない爲に、金がかゝります。概して、これ等の人は貧困者が多いため、義務制としても、就學率は低いのです。そのため、生活を援けて上げねばなりません。そこで、寄宿舎を見直福祉施設にしてみたい、二枚看板でやるようにせねばなりません。幼児保育も、これと同じ意味で、現在の段階としては、普及につとめ、普及し易いようにすることが何より大切と思ひます。

司會者——では、これでシンポジウムを終ります。ありがとうございました。

(文責記者)